

授業科目名 (英語表記)	国際関係論 (International Relations)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	藤木 剛康		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回：4月13日(木) 18:00～21:00	第3回：5月11日(木) 18:00～21:00	
	第2回：4月27日(木) 18:00～21:00	第4回：5月25日(木) 18:00～21:00	
<p>【授業の概要・ねらい】</p> <p>これまでの国際関係論は、アメリカ発の理論が圧倒的な影響力を持ってきた。しかし近年、アメリカの国際的リーダーシップの後退と中国を始めとする新興国の台頭を反映して、アメリカ以外の国々の理論への関心が高まっている。この講義ではその中の一つである英国学派の国際関係理論を学び、我々の見方を相対化し、今日の国際関係の変動の背景とその展望について、英国学派の議論からどのような示唆が得られるのか、自らの意見を述べられるようになることをめざす。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：英国学派の概要。①「英国学派入門」の訳者解説、②参考文献、を熟読し、疑問点・論点を考えてくること。</p> <p>第3回：英国学派の背景と文脈①。第1章と第2章を熟読し、疑問点・論点を考えてくること。</p> <p>第4回：英国学派の背景と文脈②。第3章を熟読し、疑問点・論点を考えてくること。</p> <p>第5回：英国学派の歴史的・構造的方向性。第4章と第5章を熟読し、疑問点・論点を考えてくること。</p> <p>第6回：英国学派の規範的方向性①。第6章～8章を熟読し、疑問点・論点を考えてくること。</p> <p>第7回：英国学派の規範的方向性②。第9章～10章を熟読し、疑問点・論点を考えてくること。</p> <p>第8回：まとめ。最終レポートの作成</p> <p>【到達目標】</p> <p>英国学派の国際関係論の概要とその今日的な意義や限界について、自分の言葉で説明できるようになること。</p> <p>【成績評価の方法・基準】</p> <p>各回の報告(60%)と最終レポート(40%)で評価します。</p> <p>【教科書】</p> <p>バリー・ブザン「英国学派入門－国際社会論へのアプローチ」日本経済評論社</p> <p>【参考書・参考文献】</p> <p>ヤニス・A・スティヴァクティス「第3章 英国学派」→初日の講義で議論します。各自でウェブより入手して熟読し、疑問点や論点を考えてきてください。</p> <p>https://medium.com/@BetterLateThanNever/%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E9%96%A2%E4%BF%82%E8%AB%96%E3%81%AE%E7%90%86%E8%AB%96-%E7%AC%AC3%E7%AB%A0-%E8%8B%B1%E5%9B%BD%E5%AD%A6%E6%B4%BE-693e30b5a903</p> <p>【履修上の注意・メッセージ】</p> <p>講義の読書課題だけでなく、日常的に新聞やニュースを視聴して国際情勢に関心を持ち、理論の妥当性について考えてもらいたい。</p> <p>【履修する上で必要な事項】</p> <p>特になし</p> <p>【授業時間外学修についての指示】</p> <p>授業計画に沿って、各回の予習と復習を行ってください。</p> <p>【授業理解を深める方法】</p> <p>この授業は、本学アクティブラーニングガイドラインの以下の項目に該当します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑥学生自らが実施する調査やトレーニングを必要とする学習 ⑧学生による発表をとまなう学習 ⑩グループワークをとまなう授業 			